

平成 28 年度博物館講座
尾張平野を語る 21



ウールが支えた 洋装文化

一宮市域を含む尾西地方は、近代の洋装需要を見込み、全国にさきがけてウールの生産に取り組み、「ウールの尾西」として知られてきました。

今回の講演会シリーズでは、現代日本の日常に根付いた洋装文化について、その起源から日本での展開までを追って行きます。

2/5 日

雑誌『皇族画報』にみる近代皇族の
ファッション —おとな服・こども服

青木 淳子氏 大東文化大学特任准教授

2/12 日

華麗なる大礼服の二面性
—制服の魅力と強制力—

刑部 芳則氏 日本大学准教授

2/19 日

学校制服の成り立ちと移り変わり
—衣服のかたちと素材に注目して

難波 知子氏 お茶の水女子大学助教

2/26 日

近代日本洋装化の源泉
—紳士淑女のファッション—

能澤 慧子氏 東京家政大学教授

時間 午後 2 時～午後 3 時（開場は午後 1 時 30 分）

会場 一宮市博物館講座室

定員 先着 100 名（当日午後 1 時より整理券配付）

聴講無料（ただし常設観覧料が必要）

一宮市博物館
ICHINOMIYA CITY MUSEUM

〒491-0922 一宮市大和町妙興寺 2390
TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216
URL <http://www.icm-jp.com/>

2/5

日

雑誌『皇族画報』にみる近代皇族の
ファッション —おとな服・こども服

青木 淳子氏 大東文化大学特任准教授

1982 年、日本女子大学家政学部被服科卒業後、出版社で雑誌編集に携わる。結婚を機に退社したのち、1998 年、日本女子大学大学院家政学研究科修士課程修了。2013 年、東京大学大学院学際情報学府で博士号取得。学際情報学博士。東横学園女子短期大学（現東京都市大学）、フェリス学院大学の非常勤講師等を経て、現職。

【主要編著書】『パリの皇族モダニズム—領収書が明かす生活と経済感覚—』（角川学芸出版、2014）等。

『皇族画報』は明治 41 年（1908）から昭和 9 年（1934）まで民間の出版社から発行された雑誌です。明治維新以降、政府主導のもとに西洋化が進められ、大正期には大衆にもモダニズムの風潮が認められました。そんななか『皇族画報』には、軍服を着用した男性皇族、そのかたわらには優雅なローブデコルテ姿の皇族妃の肖像写真が掲載されています。当時の読者にとって皇族妃のドレス姿は「おとぎの国のお姫様」でした。また、学習院の制服を着た男子皇族、フリルのついた可愛らしい洋服を着て帽子を被った女子皇族の写真も見ることができます。このように当時の皇族はファッションによって、西洋化を推進し

た存在でもあったのです。本講演では、『皇族画報』の写真を皆さんと一緒にめぐりながら、当時の皇族の装いと暮らしを探り、それが日本の西洋化やモダニズムとどのような関係を持っていたのか、考えていきます。



男児用スーツ

北白川宮永久王（1910-1940）所用
館蔵（墨コレクション）

上衣：丈 46.3 B73.0

ズボン：丈 57.5 W73.0

陸軍軍服を模したもので、6～8 歳ごろの着用品かと思われます。男児用の衣服では、当時の軍国主義を反映し、陸軍軍服を模した詰襟や海軍軍服を模したセーラー服が流行していました。

2/12日

華麗なる大礼服の二面性 —制服の魅力と強制力—

刑部 芳則氏 日本大学准教授

2010 年、中央大学大学院文学研究科博士課程修了学位取得。博士（史学）。中央大学文学部兼任講師、日本大学助教等を経て、現職。

【主要編著書】『洋服・散髪・脱刀—服制の明治維新—』（講談社選書メチエ、2010）、『明治国家の服制と華族』（吉川弘文館、2012）、『京都に残った公家たち—華族の近代—』（吉川弘文館歴史文化ライブラリー、2014）、『三条実美孤独の宰相とその一族』（吉川弘文館、2016）、『帝国日本の大礼服—国家権威の表象—』（法政大学出版局、2016）等。

明治政府は、公式儀礼の場で用いる大礼服、陸海軍の軍人が着る軍服、それ以外の官職につく官員たちの制服などを定めました。また各種学校でも学生服としての制服が設けられました。服制という制度によって決められた制服は、誰もが袖をとおすことは許されず、自分の好みに合わない場合にも必ず着なければなりません。制服には、限られた者に与え

られた特権的な魅力と、選択の自由がきかない強制力が共存しています。その点について官僚たちの大礼服から明らかにします。どのような洋服店で仕立て、一着の費用はいくらぐらいしたのか。そうした基本的な情報をはじめ、着こなす上での苦労話なども紹介し、大礼服がいかにして普及していったかを考えます。また講演では、一宮市博物館で所蔵している貴重な制服類の見どころについても説明します。



文官（勅任官）大礼服

侍医頭・岡玄卿(1852～1925)所用
館蔵(墨コレクション)

上衣：丈 53.5-92.0 W103.6

袴：丈 101.0 W98.6

下衣：丈 48.7 B103.5

明治5年(1872)11月12日の太政官布告によって、文官と非役有位者の大礼服を含む服制が規定されました。この大礼服は、その後に改正された明治19年の制度に則っています。随所に桐唐草などの日本の伝統的な文様が用いられています。

2/19日

学校制服の成り立ちと移り変わり —衣服のかたちと素材に注目して

難波 知子氏 お茶の水女子大学助教

2010 年、お茶の水女子大学大学院博士後期課程（比較社会文化学専攻）修了。博士（学術）。お茶の水女子大学常勤研究員等を経て、現職。

【主要編著書】『学校制服の文化史 日本近代における女子生徒服装の変遷』（創元社、2012）、『近代日本学校制服図録』（創元社、2016）等。

学校制服は、男女とも明治時代に成立します。男子は詰襟学生服（洋服）、女子は袴（和服）です。女子の場合は、大正時代末以降にセーラー服などの洋服になっていきますが、男女では洋装の時期にタイムラグがありました。服装の様式は異なりましたが、男女それぞれの制服には、所属する学校を表す“しるし”が付けられました。例えば、男子は学帽に付けられた帽章や白線、女子は袴に付けられたバンドやライン（袴章）です。これらの制服は、学校で規則が定められながらも、その費用は家庭が負担する仕組みで成り立っています。したがって、裕福な家庭では上質な生地（ウール）で仕立てられた注文服、貧困家庭では安価な量産品の既製服（綿）が選ばれました。エリートから大衆へ、また都市から地方へと学校制服が普及していく様相を、具体的な事例や写真資料等を示しながらお話していきます。



学習院初等科制服

北白川宮永久王（1910-1940）所用
館蔵（墨コレクション）

丈 48.4 B72.0

明治 10 年（1877）東京神田に設立された学習院では、明治 12 年に私費調製による制服が制定されました。海軍士官の軍服になった詰襟・ホック掛けの上着に、襟元には桜花の徽章がついています。

2/26日

近代日本洋装化の源泉 —紳士淑女のファッション—

能澤 慧子氏 東京家政大学教授

1970 年、お茶の水女子大学家政学部被服学科卒業。文化女子大学(現：文化学園大学)助手、講師、助教授を経て、現職。

【主要編著書】『モードの社会史』(有斐閣選書、1991)、『二十世紀モード』(講談社、1994)、『早引きファッションアパレル用語辞典』(ナツメ社、2013)、『日本服飾史』(共著、東京堂出版、2014)等。【主要翻訳書】オリヴィエ・バルドル『パリのファッションビジネス』(文化出版局、1981)、ポール・ポワレ『ポール・ポワレの革命』(文化出版局、1982)、エリザベス・ユウイング『こども服の歴史』(共訳、東京堂出版、2016)等。

わが国の洋装化は早くも幕末に、その機能上の必要性から、軍服の分野で始まりました。その後、明治政府は日本近代化の表象としての服装に着目し、洋装化を推進しました。男性の燕尾服とフロックコート、シルクハットに山高帽、女性のバスル型のドレス、パラソル、ショールなど、当時わが国に導入された洋装を生み出したヨーロッパ社会、その中核をなしていたのは紳士淑女でした。19 世紀後期のヨーロッパの紳士淑女、そしてそのファッションと美意識に注目します。



〔左〕有爵者(伯爵)大礼服

貴族院議員(伯爵)・橋本実斐所用

上衣：丈 46.0-85.8 B99.5

袴：丈 96.0 W81.0

帽：高さ 20.5 幅 43.3

剣：長さ 80.0

靴：高さ 14.0 長さ 28.0

〔右〕宮内高等官(勅任官)大礼服

侍医頭・岡玄卿(1852～1925)所用

上衣：丈 95.4 B105.8

袴：丈 97.5 W87.0

下衣：丈 49.6 B103.4

ともに館蔵(墨コレクション)

明治時代に入り、フランスやプロイセンの宮廷服を参考に、洋式の大礼服が制定されました。

※サイズの単位は全て cm

むかしの道具の、ナイショのハナシ。

あか
赤ちゃんのとき、

がっ こう
学校にいくとき、

し こと
お仕事にいくとき、

いえでくつろぐとき、

いつでもどこでもいっしょにいたから、

きものや服は、ちょっとおしゃべり。

おとな服
こども服

企画展 暮らしの道具

平成29年1月14日(土)~3月20日(月・祝)

開館時間:午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで)

休 館 日:毎週月曜日(ただし3月20日は開館)

市内小中学生は観覧無料

常設観覧料(企画展を含む)

	観覧料(1人1回)		年間観覧券等		
	個人	20人以上の団体	博物館パスポート (年間観覧券)	ミュゼカード (年間共通観覧券)	常設展示 共通観覧券
一般	200 円	160 円	800 円	2,000 円	400 円
高校・大学生	100 円	80 円	400 円	1,000 円	200 円
小学生・中学生	50 円	40 円	200 円	500 円	100 円

※市内小・中学生は無料。市外小・中学生は土曜日無料。
※市内在住の満 65 歳以上で、住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方は無料。
※身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料。
※博物館/パスポートは、一宮市博物館の常設展示および特別展示を有効期間中何度でも観覧できます。
※ミュゼカードは、一宮市博物館および三岸節子記念美術館の常設展示および特別展示を有効期間中何度でも観覧できます。
※博物館/パスポートおよびミュゼカードは、発行から1年間有効。
※常設展示共通観覧券は、一宮市博物館および一宮市三岸節子記念美術館の常設展示を、施設ごとに1回まで観覧できます。有効期限はありません。

一宮市博物館

ICHINOMIYA CITY MUSEUM

〒491-0922

一宮市大和町妙興寺2390番地

TEL.0586-46-3215

FAX.0586-46-3216

URL <http://www.icm-jp.com/>

交通/名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車南口より徒歩約7分
ニコニコふれあいバス「博物館西」下車徒歩約5分

